

供覧症例2・乳腺腫瘍穿刺 -invasive micropapillary carcinoma-

女性：70歳

左C領域の腫瘍、徐々に増大

【細胞像】

壊死を伴わない出血性の背景に、小型から中型の乳頭状集塊が多数見られる。比較的豊富な胞体を有しており、特に集塊の辺縁に広い胞体での縁取りが見られることが特徴である。ときおりapical snout様の突出が見られることがある。「悪性」の診断は容易であり、特徴的な細胞配列により組織型の推測も可能である。本症例は細胞異型が強いが、invasive micropapillary carcinomaの細胞異型度は症例により様々であり、必ずしも異型度が強いもののみではない。

【病理組織像】

乳頭状の小集塊からなる癌細胞が血管茎を伴わずに増生し、その癌細胞の極性が集塊の外側を向いていることが特徴である。癌細胞と周囲の間隙に腫瘍細胞が浮遊しているように見える。EMA染色で胞巣の表面が陽性を示しており、細胞表面が外側であることがわかる。また高率にリンパ管浸襲がみられ、リンパ節転移率も高い。純粋なものは極めて少ないが、通常型に部分的に本組織型が認められる場合は予後が不良であるとされている。

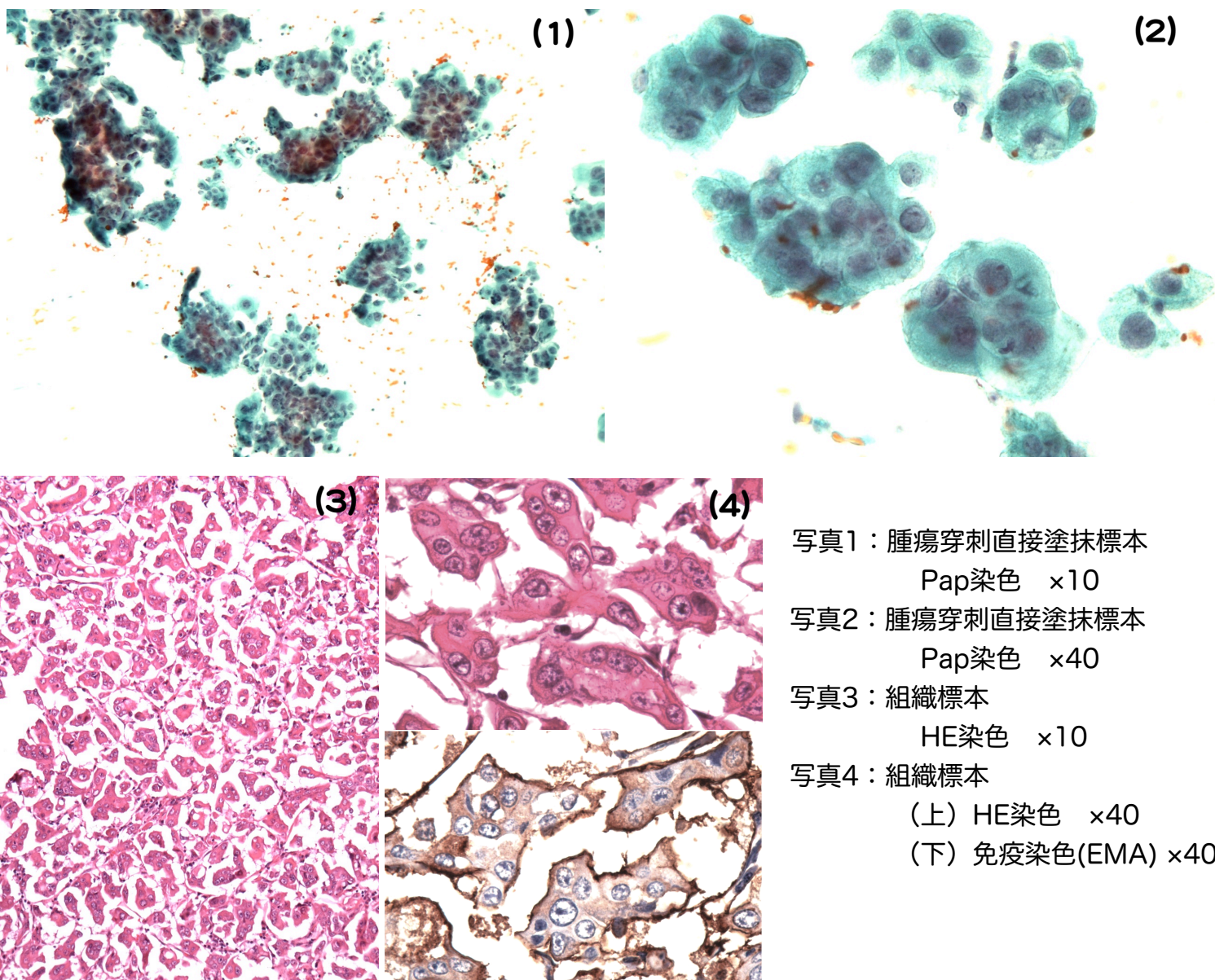


写真1：腫瘍穿刺直接塗抹標本
Pap染色 ×10

写真2：腫瘍穿刺直接塗抹標本
Pap染色 ×40

写真3：組織標本
HE染色 ×10

写真4：組織標本
(上) HE染色 ×40
(下) 免疫染色(EMA) ×40